



## 困難を乗り越える心の在り方

副校長 北川 みどり

今年は梅雨の記録的な長雨と大雨の影響で、全国各地で甚大な被害が出てしまいました。その報道の中で、家が浸水し何もかも無くしてしまった男性が泣きながらテレビのインタビューを受けていました。その涙には、多くの意味があるのかもしれませんが、しかし、その男性が発した言葉は嘆きや悲観ではなく、「感謝」でした。「復旧のために助けに来てくれた方々に感謝しかありません。」と。

今学校では、新型コロナウイルス感染症対策として授業にも制約があります。特に音楽の授業では、歌うことや楽器を扱うことなどに多くの制約があります。本校の音楽専科の教員は、「今できることで一から授業を考えていくこともチャレンジです。」と私に話してくれました。そして、実際に3密を避けながら授業を成立させています。さらに、アフリカの飢餓と貧困層を解消するためのチャリティなど、これまで音楽の力が社会を動かしてきたことを紹介していました。ある担任は、社会科の水俣病の学習を扱った時に、当時起こった差別問題に焦点を当て、今のコロナ渦でも危惧されている医療従事者等への差別的な問題を意識しながら授業を展開していました。まさに今だからこそできることを生かした授業を教員も日々模索しながら行っています。

コロナがなければ、オリパラの真っ最中だったのに、夏休みだったのに、旅行に行けたのに…と誰もが思ってしまう状況が続いています。しかし、被災しても感謝の思いを真っ先に述べた男性や、新しい授業を前向きに作り出そうと努力している教員たちの姿から、受け止める側の心の在り方で多くのことを乗り越えられるのではないかと改めて感じました。

わたしたち学校は、今こそ力を携えて子供たちの学びを保障していきたいと考えます。今後ともご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

### 1年生を迎える会

7月21日(金)、代表委員の放送で会は始まりました。各教室にいる全校児童の、1年生を迎える拍手が響きました。1年生の教室に各学年の代表児童が登場し、お祝いのプレゼントをしたり学校の様子を紹介したりしました。時間をかけてプレゼントを作り、廊下で緊張しながら出番を待つ上級生、出し物やプレゼントに大喜びの1年生…この会でつながりが深まったようでした。全校が集うことはできなかったのですが、とても素敵な会になりました。

